今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

〇8月19日～

先週は順調に株も上昇し、為替相場も円安方向に動きました。
急落から2週間ほど戻しが入った状況です。このまま上昇が続くのかというとテクニカルで見ると節目あたりまで戻したので、そろそろ上値が重くなってきそうです。
急落・急騰とどちらも一方向にかなりの値幅動いているので、日本株はかなり激しい動きです。
そして、日経平均の動きはドル／円と連動するため為替がどうなるかが今後の日本株の動きにも大きな影響を与えます。
先週のドル／円は150円まで戻ることができず、ここから再度円高方向へ動き出すと150円を超えるのは厳しくなっていくかもしれません。
今週警戒しないといけない問題としては、中東情勢があります。
ロシアとウクライナの問題もあるため地政学リスクには常に目を向けておかなければいけません。・イランは7月末にイランで起きたハマス幹部の殺害について、イスラエルに復讐すると言っているため何らかの形でイスラエルを攻撃する可能性があります。
イスラエルとハマスの停戦交渉の行方がどうなるかでリスク回避的な動きが強まるかもしれません。4月もイランとイスラエルの問題で大きくマーケットが下落しましたが今回も同じように警戒がいります。この問題が悪化するとイランとイスラエルだけでなく、中東全体が不安定になってきます。
今週は23日にパウエルFRB議長がジャクソンホールで講演するので、その内容にも注目です。
また、岸田総理が不出馬表明をしたことで、次の総理大臣が誰になるのか不透明な状況です。
日銀の金融政策だけでなく政治の行方も気になります。
今週の指標としては、日本では全国消費者物価指数、米国では住宅関連の指標があります。
先週は、米国の住宅着工件数や建設許可件数が予想より悪かったことで米国経済に対して不安が再燃したこともあり、今後も米国の住宅関連の指標は重要です。
利下げに動く国が増えていますがオーストラリアはインフレがまだおさまっていないため利下げの可能性は少ない状況です。
6月には欧州、カナダ、8月は英国とニュージーランドが利下げに動き始めました。
今後、各国がどの程度の利下げを行うのかも注意して見ていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

＜ドル／円＞

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved

今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は146円あたりでは底堅く、149円台まで値を伸ばしました。
このあたりは、161円の高値から引いたレジスタンスがきているため上値が重い状況に。
また、149円半ばのレートは、7月高値から8月安値の20円程度の下落のフィボナッチリトレースメントの38．2%戻しのレートとも重なります。
節目の150円には届かず、週末には147円台まで押し戻されてマーケットは終わっています。
上昇しても149円台半ば、150円あたりが抵抗として意識されそうです。
下値は146円を維持できれば再度150円をトライする可能性が高く、逆に割り込むと円高リスクが再燃しそうです。
146円を割り込むと144円あたりにサポートがありますが、ここも割り込むと141円台まで下落するリスクが出てくるので注意がいります。

＜気になるクロス円＞

クロス円もドル／円や株と同様に週足で見て陽線が2本続いているペアが多く、8月5日を底に上昇が続きました。
今週は調整が入る可能性が高く、一方向に上昇が続いただけに安値更新の動きには警戒しないといけません。
下げ始めたら二番底を目指すリスクもあるので、下げ止まるまで買いに入るのは危険です。

＊クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

＜今週のファンダメンタル？＞

日本では6月機械受注、7月貿易統計、7月全国消費者物価指数などがあります。
米国では7月景気先行指標総合指数、FOMC議事要旨、前週分新規失業保険申請件数、8月製造業・サービス部門・総合PMI（速報値）、7月中古住宅販売件数、7月新築住宅販売件数などが発表されます。
欧州ではユーロ圏とドイツで8月製造業・サービス業PMI（速報値）、ユーロ圏で7月消費者物価指数、ECB（欧州中央銀行）理事会議事要旨などがあります。
ほかには、カナダで7月消費者物価指数、6月小売売上高、英国で8月製造業・サービス業PMIの発表などがあります

Copyright© （有）ユビキタストレーディング　All Rights Reserved